



兵庫支部NEWS H22年 6月号

北九州市立大学同窓会兵庫支部 編集発行人 名越英昭(Tel.078-792-6130)

ホームページ http://www.hi-net.zaq.ne.jp/kono メール hn75kb@ybb.ne.jp

購読料 12回、1,500円(送料込)

購読のお申し込みは郵便振替

振替口座:00980-2-245822

口座名:北九州市立大学同窓会兵庫支部

田村允雄氏(42商)が会長に就任 平成22年度第1回評議会開催

平成22年度第1回評議会が、5月22日(土)午後3時からホテルニュータガワ(小倉北区)に於いて開催され、兵庫支部から大村実良評議員(33商)が出席し、下記内容の報告があった。

評議員53名のうち48名が出席し、あらかじめ配布されていた会次第に随って進められ、先ず平成21年度の事業(会務)報告と決算報告、そして平成22年度の運営方針・事業計画及び予算案が承認された。

次に会則改訂について審議され、事務局長の幹事兼任の容認、会費の分割納入を当分の間5,000円X4回合計20,000円とすることなどが主な改正点である。また、会員及び会員以外の公職立候補者推薦規定の改廃について口頭で提案があったが、事前に周知されていなかった為、次回に先送りされることになった。

新会長選任については、先に会長選考委員会で内定していた田村允雄氏(42商)が選任され、山下前会長の相談役就任、監査2名の留任が承認された。

田村允雄(タムラノオ)氏は昭和19年(田村允雄氏)3月萩市生まれ。42年商学科卒業後西日本新聞社記者職として入社し、平成19年6月取締役製作担当製作センター長を退任するまで、40年間同社に勤務、その間編集局長賞詞2回(特ダネ賞と努力賞)日本新聞協会賞(公務員のカラ出張等公金不正支出の究明)等を受賞し、平成10年大学の名誉を高めたとして、同窓会功労賞を受賞している。平成15年から3期6年間福岡支部長を務め昨年支部長を退任されていた。新聞記者として培われた社会正義感をもって同窓会の運営・舵取りがされる事であろう。

和歌山支部設立の承認がなされた。世話人代表の有松敏幸氏(36米英)ほか5名の世話人岡野俊一(36商)仲河志郎(41商)高井利治(42商)服部薫(44商)鈴木木教亮(57経済)が、第一線を退き、生活の中心が職場のあった大阪地区より自宅のあるそれぞれの地域に移りつつある人が増えていることなどで、和歌山支部設置を申請したもの。和歌山県内には86名の同窓生がいるとのことである。

大学ロゴマーク(校章)入りのポロシャツと携帯ストラップが発売されたことが紹介された。ポロシャツは半袖M/L, グリーンとネイビー、1,300円/枚。携帯ストラップメダルは黄/ブルーと白/ブルーの2種類で500円/個。希望者は大村支部長又は二宮事務局長にご連絡下さい。

今後の本部行事日程

第2回評議会 10/23(土)14:00~

第60回総会 10/24(日)11:00~

どちらもリーガロイヤルホテル小倉にて



平成22年度兵庫支部総会・懇親会 7月3日(土)11:00~15:00於六甲荘



(三宮駅・新神戸駅から徒歩12分)

総会:11:00~11:40 支部活動報告、役員改選
講演会:11:40~12:30 二文字理明大阪教育大教授
「スウェーデンにおける老世代の暮らしぶり」
懇親会:12:30~15:00 2Fレモンパームの間
神戸大学落語研究会出演
会費:7,000円(男女同額)
12,000円(夫婦同伴の場合2人で)
平成21年・22年卒業生は無料
申込締切:6月25日(金)

平成22年度総会準備委員会開催

5月16日(日)午後1時から、安徳信義(44商)副支部長兼幹事長を委員長とする総会準備委員会が、JR兵庫駅前の兵庫勤労市民センターにて開催された。

先般の役員会で安徳副支部長(次期支部長に内定)に準備委員の人選が一任され、次期役員に予定されている10名が出席し協議を重ねた。

出席者:安徳信義(44商)永翁正臣(41商)山田純昭(44商)松山仁(44商)河野旺生(36商)二宮慶治郎(38米英)福永憲彦(44経営)浜田勝義(44米英)高山行雄(45米英)小野成彦(50経営)牛丸敬孝(51中国)以上11名

冒頭に安徳委員長から、活性化に向けて各自自身の卒業年度の前後2年間、合計5年間の同窓生に声をかけてネットワークを作る。関西支部とも交流を図る、と挨拶があり、協議に入る。

総会で配布するパンフ作成の為、平成21年度収支決算報告書(支部会計及び兵庫支部NEWS会計)が作成担当の山田氏に渡された。



(支部総会準備を協議)

山田氏作成の支部活動報告(同好会活動も含む)の一覧表について討議し、数か所の訂正がなされた。

総会・懇親会次第案に基づいて討議。

次に総会案内の送付について協議し、今年から総会欠席者に対して賛助金(一律1,000円)を要請する事になり、その文案及び発送方法などを検討した。

すでに発送済みで兵庫支部会員諸氏には到着済みのはず。返信まだの方は早急にご返事ください。

また、講演は上記の通り二文字理明教授に、アトラクションは神戸大学落語研究会にお願いする事が決定された。

兵庫支部総会出席予定者(敬称略) —6月16日現在—

御来賓：田村允雄(42商) 同窓会会長
 加藤正己(44米英) 同窓会幹事長
 松尾祐嗣(45経営) 関西支部支部長
 大西正直(39商) 関西支部副支部長
 大道久美子(45英文) 関西支部幹事
 大江一正(46国文) 関西支部幹事

会員：井上信之(25米英) 大村実良(33商)
 鷹野哲雄(33商) 藤田博保(35商)
 河野旺生(36商) 高尾 巖(36商)
 名越英昭(37米英) 山本信司(37米英)
 平間正昭(37商) 村上勝幸(37商)
 二宮慶治郎(38米英) 後藤公一(38商)
 赤松初夫(40米英) 前原賢作(40商)
 名倉勝征(41米英) 永翁正臣(41商)
 中村明人(41商) 浜田勝義(44米英)
 久芳健二(44中国) 安徳信義(44商)
 山田紘昭(44商) 松山 仁(44商)
 澤田英憲(44経営) 福永憲彦(44経営)
 高山行雄(45米英) 隅 信(45国文)
 大西 敏(46国文) 平良登美子(48中国)
 小野成彦(50経営) 牛丸敬孝(51中国)
 牛丸真壽美(52法律) 町田実徳(53米英)
 太田裕之(H01院経営研) 佐藤研二(H08法律)

以上御来賓6名、会員34名、計40名

兵庫支部月例会5月「三金会」

5月21日(金)午後6時から、定例会場の「本館牡丹園」に於いて開催された。

出席者：大村実良(33商) 平間正昭(37商) 名越英昭(37米英) 二宮慶治郎(38米英) 前原賢作(40商) 中村明人(41商) 安徳信義(44商) 山田紘昭(44商) 安部高之(H01英米) 以上9名

安徳、山田両氏から、先般開催された「平成22年度総会準備委員会」の議事録および関係資料が配布され、会議の内容などが報告された。(詳細は一面に) それに基づいていろいろと議論が沸騰。支部総会・懇親会の成功に向けて、各人の一段の緊密な連絡・協力が要望される。

訃報

石橋博良氏(44米英)ウェザーニューズ創始者・会長

5月22日十二指腸乳頭部がんの為死去。63歳氏は、昨年の関西支部総会で講演され、同期生達との親交を深められたばかり。ご冥福を祈ります。

**「三金会」「囲碁の会」会場ご案内
本館牡丹園**

神戸市中央区元町通1丁目11-20
 電話 078-332-4588 FAX 078-392-3020

JR元町駅東口海側下車、南へ(大丸方面へ)徒歩1

「三金会」

毎月第三金曜日 午後6時～
 会費：3,500円(男性)
 2,000円(女性)

「囲碁の会」

毎月第三金曜日 午後3時～
 参加費：無料、ドリンク/500円



平成22年度本部役員名簿 (平成22年6月より)

相談役	山下建治(33商)
会長	田村允雄(42商)
幹事長	加藤正己(44米英)
副幹事長	延吉和典(43米英)
副会長(総務)	蛭川武幸(38商)
幹事(総務)	奥村英行(46国文)
幹事(総務)	*花房昭一(45経営)
幹事(総務)	足立守行(62経営)
幹事(総務)	山本照美(47英文)
副会長(財務・会計)	鞘野 優(36商)
幹事(財務・会計)	藏園 徹(62法)
副会長(広報・情報)	藤本典宣(37米英/39商)
幹事(広報・情報)	*村山昌生(34米英)
幹事(広報・情報)	重田千恵子(46米英)
幹事(広報・情報)	田中美里(H12経情)
副会長(組織)	早水弘明(39商)
幹事(組織)	前島和也(55法)
幹事(組織)	吉村 和(42米英)
幹事(組織)	*中川 清(48経営)
監査	寺崎政勝(45経営)
監査	八尋重治(45経営)
事務局長	村山昌生(34米英) *印は新役員
事務局員	高野恵子、上村美佐子

福岡大優勝、北九大は2位

最終週で福岡大が1敗し、北九大が連勝すれば優勝出来るかと僅かな望みを託していたが、第5週対西南大戦初戦の前に、福岡大が連勝し優勝を決め、北九大は2位に甘んじる結果となった。

九州六大学野球H22春季リーグ戦戦績表

	北九大	福岡大	九国大	西南大	九州大	久留米	勝	負
北九大	—	○5-2 ●2-3	○5-0 ○8-0	●1-2 ○3-1	○1-0 ○3-0	●2-4 △5-5	6	3
福岡大	●2-5 ○3-2	—	○9-3 ○6-3	●1-2 ○3-2	○7-1 ○4-1	○2-1 ○9-1	8	2
九国大	●0-5 ●0-8	●3-9 ●3-6	—	○8-0 ●2-8	○4-0 ○10-1	●6-8 ○4-3	4	6
西南大	○2-1 ●1-3	○2-1 ●2-3	●0-8 ○8-2	—	○5-0 ○10-0	○4-3 ●2-8	6	4
九州大	●0-1 ●0-3	●1-7 ●1-4	●0-4 ●1-10	●0-5 ●0-10	—	○3-2 ○3-2	2	8
久留米	○4-2 △5-5	●1-2 ●1-9	○8-6 ●3-4	●3-4 ○8-2	●2-3 ●2-3	—	3	6
							1分	



損害保険・医療保険・がん保険
 の総合保険代理店
安心の発信基地

大村保険サービス

代表 大村実良
 (昭和33年商学部卒)

652-0897
 神戸市兵庫区駅南通3丁目4-1-302
 TEL 078-671-7318 FAX 078-671-8316

世界遺産熊野古道ウォーク

第13回(2日目)発心門王子→本宮大社

いよいよ本日で熊野古道ウォークも最後となった。那智湾に面したホテル「かつうら御苑」を午前8時に出発し、先ず那智大社へ向かい「大門坂」と呼ばれる参道入口の駐車場へ到着。



駐車場にあるお土産屋「くじら亭」の女主人(従業員?)が大門坂を同行案内してくれる。もっとも帰途立ち寄り「くじら大和煮」缶詰をお土産に買ったが、

(大門坂駐車場) 石畳の古道らしい雰囲気の大門坂は、宣伝用写真の撮影スポット。(右)

左手に南方熊楠が滞在したという大阪屋旅館、新宮藩関所跡(十一文関)等を見やり、樹齢800年以上という夫婦杉の間を通り抜けると、右手に九十九王子最後の99番目の多富気王子の石碑が見える。(写真左)



約1キロの大門坂を登り切ると駐車場にでる。そこからさらに467段の階段を上り熊野那智大社境内に到着した。参拝後境内を右にとって行く

と西国33カ所の一番札として知られている青岸渡寺である。この境内から眺める那智の滝と三重塔は観光案内書などで良く見かけ



(熊野那智大社)

る景色だ。ここまでくればやはり滝の足元まで行かなくては。落差133mの滝は傍から見ると圧倒される。この滝を御神体とする飛龍神社がある。



(那智の滝と三重塔)

「くじら亭」に寄り、一旦海岸沿いの町、勝浦まで戻り、バイパス経由で新宮方面へ約1時間バスに揺られて、熊野三山の一つ熊野速玉大社へと向かった。この境内には、屏風を模った石板に入江侍従長の書で熊野御幸の記録が掲示されていた。それによると、最多回数は後白河上皇の32年間(1160年~1191年)で33回、



(熊野速玉大社)

頻度数では、後鳥羽上皇の鎌倉時代初期の24年間(1198年~1221年)に29回の熊野詣がなされている。

熊野速玉大社参拝後、再びバスに乗車し、熊野本宮大社前で昨日の語り部さんと合流し、最終コースの出発地点である発心門王子社へと向かう。第8回の田辺市から中辺路に入り、「まえだ」の味噌汁付き、蜜柑付きの弁当が配布されるようになり、今日迄連続7回世話になった弁当を味わった後、最終のウォーキングコースに挑戦だ。



(発心門王子の鳥居)

とはいってもこのコースは、熊野古道が世界遺産に登録され

た直後の平成16年8月に「歩こう会」の21名と共に歩いたコースであり、歩いて行くうちに、当時の思い出が甦って来た。

発心門とは、仏の道に帰依する心を発する入口(門)という意味で、この王子社の鳥居をくぐることにより神仏に近づく覚悟をしたという。この王子社から少し下がった平地に南無房堂



(南無房堂址)

という尼庵があったと説明板がある。藤原定家が宿泊した時、この頃の参詣者は堂社に落書きする習俗があり、定家も柱や堂に歌を書きつけ、後から南無房が、そうした振る舞いを嫌っている事を知り、バツの悪い思いをしたという。

発心門王子から少し歩くと水呑王子がある。ここにはかつて分校があったが、今は廃校になっている。



(水呑王子の石碑と地藏さん)

この辺りから地道に入り、古道らしい杉木立の中を歩きやがて伏拝王子にやってきた。ここから移転前の本宮大社が眺望でき、参詣者はここで伏拝んだことから伏拝王子と呼ばれるということだ。和泉式部はここまでやってきて月の障りとなり参拝を断念しようとしたが、熊

(杉木立の中を歩く)

野権現が快く受け入れてくれ、無事参拝できたとの話がある。

この近くにNHK朝ドラ「ほんまもん」の舞台となった場所があり、最近TV放映されたマナ・カナの熊野古道ウォークでは同所で裏白



(伏拝王子から本宮方面眺望)の葉を飛行機のように投げる遊びを指南された松本俊二さんが、裏白投げを見せてくれた。



左の写真が伏拝王子の石碑と和泉式部の歌碑である。



(祓殿王子)

そこから少し山道を上り、そして石畳敷きの道を下ると祓殿王子に到着。本宮大社が目の場所であり、最後の

襦ぎやお祓いをしてイザ本宮大社へと変わったらしい。こちらからは本宮大社の脇から入る事になるからだろうか、語り部さんは鳥居の脇をすり抜けて案内された。

社域に入ると真っ黒な郵便ポストが目に入る。その上には真っ黒な八咫鳥がいる。6年前の歩こう会の時は無かったはず。正面に回り境内に入る。境内(神域)は撮影禁止である。参拝後、参拝客だけに販売という「もうで餅」を買い求め、帰路に就く。



(本宮大社正面)

藤白王子から始まって本宮大社迄、約146kmを無事踏破。応援有難うございます。

歩こう会5月例会

大阪渡船場めぐり

五月晴れの好天に恵まれた5月9日(日)午前10時JRゆめ咲線(桜島線)桜島駅に集合したのは、右の写真の左から浜田勝義(44米英)二宮慶治郎(38米英)伊藤互(35商)平間正昭(37商)安徳信義(44商)岡本常市(ゲスト)そして撮影者名越英昭(37米英)の7人である。(敬称略)

水の都と言われる大阪には、昭和10年ころには、31か所の渡船場があり、年間5700万人以上の利用者があったが、現在は8か所が残り、大阪市の運営により無料で利用できる。平成20年度には約208万人が利用している。

今回は8か所のうち、6か所の渡船場を訪ねる約13kmの行程だ。

桜島駅から15分ほどで最初の渡船場「天保山渡船場」に到着。朝夕は15分毎、昼間は30分毎の運行。対岸(天保山側)を定刻10:30に出航した船に桜島側で10:34頃に乗船して、渡船巡りの始まりだ。



(天保山から到着した渡船)



(天保山山頂で記念撮影)

天保山側で下船し天保山公園を訪ねる。ここに日本一低い山天保山(標高4.53m)がある。

天保2年(1831年)安治川浚渫の土砂を積み上げたもの。当初約20mあったが、砲台建設の土砂が採取されたり、地盤沈下などで現在の4.53mになったのだそうだ。

ここから「みなと通り」を北西に進み、「三先1」交差点を右折し、約1時間で「甚兵衛渡船場」に到着。ここは利用者が一番多く1日約1570人で、天保山渡船場では約900人



(甚兵衛渡船場で乗船中の一行)

である。朝のラッシュ時には2台の船が随時運航され昼間の運行も15分毎である。次の千歳渡船場へは、南下して約15分で到着する



(千歳渡船場で乗船中)

大正区の内港化工事の際、既設の千歳橋が撤去され設けられたもので、岸壁間371mと天保山渡し400mに次ぐ長さである。1日約750人の利用。昼間は20分毎の運航である。乗員詰所から出航直前に現れ、定刻に出航する為、乗客を急いで船に案内する。乗船時の写真を撮りたいと思っても、急かされてゆっくり撮影できな状況だ。因みに撤去された千歳橋は平成15年に再建されたが、渡船は橋に沿って運航される形で継続されている。

千歳渡船場を渡ると大正区鶴町に入る。下見の時に弁当を買ったお店が休んでいた為、少し離れた別のノ

スーパーで買い求め、鶴町中央公園でビールを片手に昼食をとる。



(左、二宮・伊藤両氏 右、浜田、平間、岡本各氏)

昼食を終え、十分に休養をとり再出発したのは午後1時半だった。約30分ほど歩いて本日4番目の渡船場、千本松渡船場に到着した。木津川の川尻近くの、

岸壁間230mを結ぶ渡船で、昭和48年に千本松大橋が完成し廃止されようとしたが、住民の強い要望により存続された。1日約1190人が利用している。渡船場に到着した時は、丁度一つ前の便が対岸に



(千本松渡船場にて)

行って帰ってきたところ。次便まで約10分待つ事になる。対岸に渡ると西成区南津守で、日曜日で人も車も殆んど通らない工場街のんびりと歩いてゆく。



次の落合下渡船場までは2キロ足らず、25分ばかりで渡船場に到着した。

千本松渡船場より上流の木津川の岸壁間138mを結び1日約390人程度の利用。毎年10月下旬から翌年4月下旬にかけてユリカモメが飛来するそうだ。

本日最後6番目の落合上渡船場までは約1キロで、落合下渡船場からも見える。



落合下の上流になり岸壁間は100m。1日の利用客は約540人。渡船場の上流にある木津川水門(防潮)は毎月1回程度開閉試運転のため閉まっているのが見ら



るとのこと。

(本日最後の渡船乗船中)

本日最後に乗船したのは、福岡丸定員46人のこれまでもよりは少し小ぶりの船であった。因みに殆んどの渡船が定員80名となっていた。

どの渡船場でも5~10人の歩行者と自転車の利用があり、地元の人達に重宝されている事が判る。神戸とは違い大阪は平坦な道ばかりで、自転車の利用がそれだけ多いのだと思う。

8か所のうち6か所を制覇。残り2か所は船町渡船場(岸壁75m、1日約210人)と木津川渡船場(岸壁間238m、1日約180人)である。

最後の渡船場を渡り、ゴールの大正駅を目指して北へ北へと歩くが、駅前で薩摩郷土料理「ちどり亭」につかまり、本日の疲れを癒し、明日への活力を培うことになった。

